

狂犬病予防集合注射で発生した事故について

小田原市が実施している飼い犬に対する狂犬病予防集合注射において、注射針が誤って飼い主に刺さる事案が発生しましたので公表します。

1 発生日時

令和4年5月18日（水）午前10時

2 発生場所

川東タウンセンター・マロニエ ふれあい広場

3 事案の概要

飼い犬の狂犬病予防接種を受けようとした飼い主に、誤って注射針が刺さった。

《詳細》

通常、狂犬病予防接種を受ける飼い犬を、飼い主がしっかり保定した上で獣医師が注射をうつが、今回は注射をうつ直前に飼い犬が暴れ、獣医師がもつ注射の針が飼い主の手に刺さった。

4 現在の状況

飼い主は、針が刺さったことによる痛みを訴えたが、その場で獣医師から病院を受診するよう助言を受け帰宅。

同日午後2時、本市から飼い主に体調の確認。異常の訴えはなし。

5 今後の対応

《飼い主（本件の当事者）に対して》

飼い主（本件の当事者）の健康状態を注視し、必要に応じて適切な治療が受けられるよう支援する。

《狂犬病予防注射事業に対して》

注射時には飼い犬をしっかり保定できていることを確認することを徹底する。

6 狂犬病予防集合注射事業について

- 本市では、5月10日（火）から延べ11日間にわたり、狂犬病を予防するためのワクチン接種を、集合形式で実施している。会場数は重複を含め延べ17。
- 令和4年度の予防接種の対象となる飼い犬の頭数は10,041頭（案内ハガキ送付数）。
- そのうちおよそ1千頭が来場するものと見込んでいる。残りは動物病院等で個別接種。
- 5月18日（水）は川東タウンセンター・マロニエで実施。
- 会場では受付後、飼い主が飼い犬を注射場所に連れていき、飼い主自らが飼い犬が暴れないように保定した上で、獣医師が注射をうつ。
- ワクチンの名称は、狂犬病組織培養不活化ワクチン*（KMバイオロジクス株式会社製）。
*不活化ワクチン：ウイルスの感染する能力を失わせたものを原料に作られたワクチン
- 会場では神奈川県獣医師会から派遣された獣医師が注射を実施。